

普及啓発小冊子について

1 目的

都民が、ACPについて知り、家族や医療・介護関係者とともに、自らが希望する医療・ケアについて考えることができるようにする。

2 小冊子の概要

(1) 都が作成する目的

これまで発行されているACPに関する普及啓発媒体は、ACPの考え方や重要性についてが主な内容となっている。

今回、都が作成する本小冊子では、都民の「何を考えればいいのか分からない」という声に応えるため、状況別のACPを紹介するとともに、事例等によりACPの具体的な場面を用いて解説する内容とすることで、自身や家族の状況に応じて話し合うべきことについて理解を深めてもらえるようにする。

(2) 形式

大きさA5～B5 20頁程度

(3) 掲載内容のポイント

- ① ACPの概要と、その必要性が具体的に分かる内容
- ② 自分や家族の状況に応じて、話し合うべきことが分かる内容
- ③ 事例等を用いてACPの具体的な場面を紹介し解説することで、都民が実際の場面をイメージできる内容

(4) 対象及び活用方法

- ・都民がACPを実施する際に参考とすることに加え、医療・介護関係者が本人や家族のACPを支援する際に、本小冊子をもとに状況にあったACPの場面を紹介する等の活用を想定

対象	活用場所	活用方法	実施主体
都民への普及啓発	地域の町内会、自治会、老人クラブ等の地域団体でのイベント等	○区市町村が、地域団体等と連携して行う出張講座等で活用 ○地域団体等が行うイベント等での利用	区市町村
	市民公開講座等	○区市町村が講演会等で活用	東京都、区市町村
	東京都広報媒体（twitter、ホームページ等）	○イベントや講座等へ参加する機会のない市民への普及	東京都
患者・家族への説明	医療機関や、地域において患者への説明時	○かかりつけ医、在宅医、ケアマネジャーや訪問看護師、病院などが、患者や家族の説明で補助資料として活用	東京都、関係団体等より配布
医療・介護関係者への周知	都主催の各種研修、シンポジウム等 地域で開催している多職種研修等	○研修にて説明、配布	東京都、区市町村

(5) 小冊子内容の骨子

- ・資料7別紙「普及啓発小冊子の骨子（案）」を参照

3 普及啓発小冊子の具体的な作成方法

- ・「1. ACPの概要」「2. 状況に応じたACPについて」等については事務局にて作成した原稿案をもとに、第2回及び第3回の部会で検討していく
- ・「3. ACPの事例紹介」については、部会委員や場合によっては事例提供者や原稿作成者を紹介いただき、原稿を執筆依頼

4 第1回の検討事項

(1) 小冊子内容の骨子に関する意見交換

※ 資料7別紙「普及啓発小冊子の骨子(案)」を参照

- 全体の構成や各記載事項について、修正や追加すべき事項がないか
- 「2. 状況に応じたACPについて」
 - ・事務局案の「想定する状況」に対する御意見
 - ・状況に応じて「考えておくこと」について、どのような事柄があるか

(2) 掲載事例に関する意見交換

- ・資料9「ACPに関する事例について(案)」において検討する

◆ 普及啓発小冊子の構成（案）

0. はじめに

- (1) ACPの考え方について紹介
- (2) 普及啓発小冊子の作成目的

① ACPの概要と、その必要性が具体的に分かる内容

1. ACPの概要

(1) ACPがなぜ必要なのか

命の危機が迫った状態になると約7割の方が自分で医療やケアを決めたり、希望を伝えたりすることができなくなるといわれていることや、元気なうちから前向きにこれからの生き方を考え、大切な人とその意思を共有しておく重要性などについて説明

(2) ACPの一般的なプロセスを紹介

繰り返し行う3つのプロセス「①考え ②話し合い ③書き留める」を図で分かりやすく紹介

(3) ACPに取り組む際の心構えや留意事項について紹介

○本人や家族が実際にACPに取り組む際に知っておくべきことや留意すべきことについて、以下の項目を紹介する。

- ・「決定する」ことだけでなく、人生観や価値観に着目する重要性や効果について
- ・ACPを行うのに適切な時期やタイミングについて
- ・「信頼できる人」に関する説明や「信頼する人」を決めておく必要性について
- ・家族が本人のACPを支援する際に配慮すべき事項について 等

② 自分や家族の状況に応じて、話し合うべきことが分かる内容

2. 状況に応じたACPについて

○状況別に「考えておくこと」を記載し、必要に応じて考えづらい内容については、考える際のポイント等を記載する。

【想定する状況】

- ① 健康なとき
- ② 通院するとき
- ③ 入院するとき
- ④ 退院するとき（病院から在宅療養に移行するとき）
- ⑤ 在宅療養中

③ 事例等を用いてACPの具体的な場面を紹介し解説することで、都民が実際の場面をイメージできる内容

3. ACPの事例紹介 ※資料9にて検討

- 事例紹介では、都民が自分の状況を踏まえて、考えておくべきことや医療・介護関係者との関わり方を理解できる内容とする。

特に、「2. 状況に応じたACPについて」で紹介する「考えておくこと」を、話し合いの内容や支援内容に盛り込み、「2. 状況に応じたACPについて」と連動性を持たせた構成とする。

4. ACPに関し、誤解を生じやすい点等について、Q & A形式にて分かりやすく解説

(よくある誤解)

- ① 死ぬ間際の医療処置等に関することを決めておくことだけの話だと誤解
- ② 一度決めたら変えられないものと誤解
- ③ 一回話し合えばそれで良く、何度も話し合う必要はないとの誤解
- ④ もしものときの希望を家族に伝えておくだけのこととの誤解 等